

2 医療を取り巻く社会経済環境の把握と今後の見通し

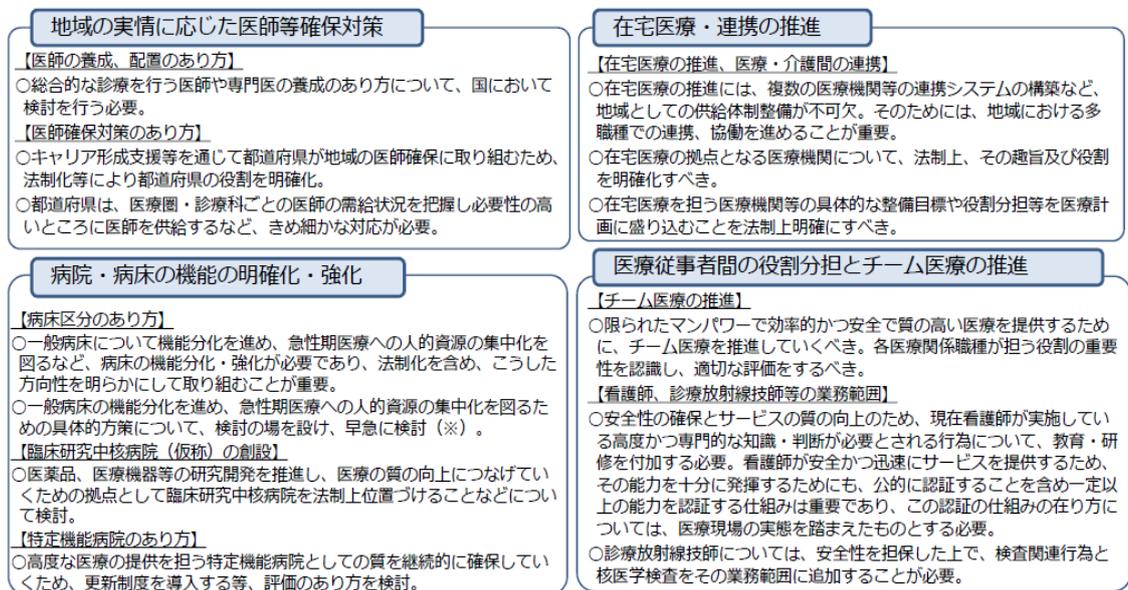
(1) 医療提供体制の改革

ア 改革の方向性

医療行政の動向としては、急性期から亜急性期・回復期等まで、患者が状態に見合った病床でその状態にふさわしい医療を受けることができるよう、急性期医療を中心に人的及び物的資源を集中投入し、入院期間を減らして早期の家庭復帰・社会復帰を実現するとともに、受け皿となる地域の病床や在宅医療・在宅介護を充実させる方針です。

厚生労働省が示した具体的な方策については下図のとおりとなっています。下図の4項目のうち、今回の市立島田市民病院の基本構想策定にあっては、「病床区分のあり方」が大きく関連し、急性期医療を担う病院としての方向性を整理する必要があります。

医療提供体制の改革における個別の論点

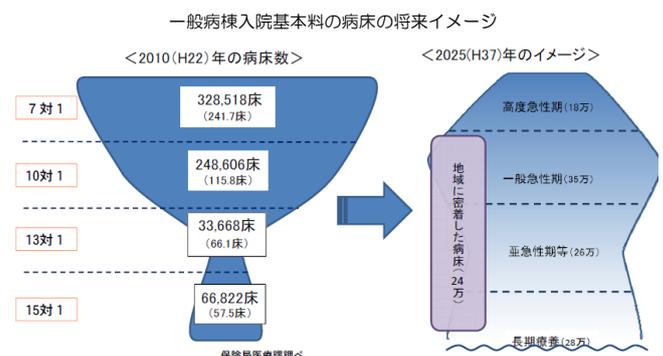


※「一般病床の機能分化」については、「急性期医療に関する作業グループ」で具体的な枠組みがとりまとめられ、平成24年6月の社会保障審議会医療部会にて了承。

イ 病院・病床機能の再編

病院・病床機能の役割分担に関しては、医療機関が、これまで一般病床として運用してきた病床に急性期だけでなく、亜急性期や療養型医療が混在するケースもあることから、急性期医療の評価基準が抜本的に見直されることとなります。

現在の病床は、診療報酬上有利な 7:1 入院基本料を算定する病床(複雑な病態をもつ急性期の患者)に対し、高度な医療を行う役割に偏っており、これを解消すべく 2025 年までに病床を、①高度急性期、②一般急性期、③亜急性期等、④長期療養の 4 つに区分し、医療機能ごとに明確な再編を図り、高度急性期から在宅医療までを地域連携でつないで、住民が必要とする医療を行う体制構築を目指しています。

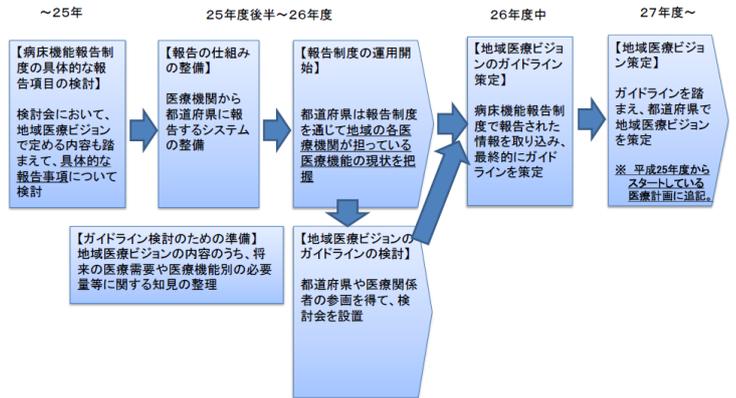


ウ 病床機能情報の報告制度と地域医療ビジョンの策定

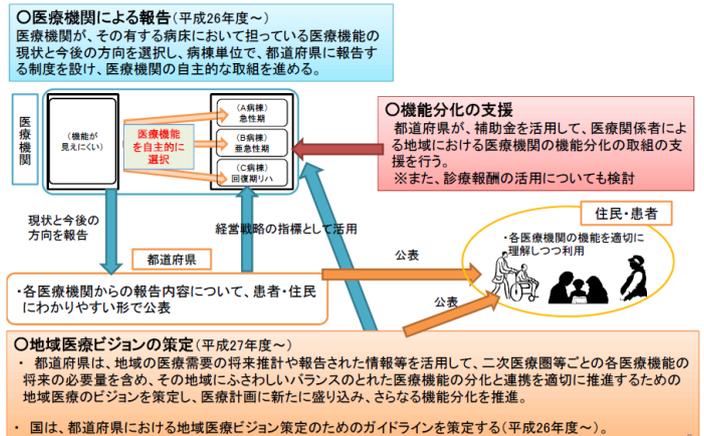
平成24年6月に「急性期医療に関する作業グループ」で取りまとめられ、社会保障審議会医療部会です承された「一般病床の機能分化の推進についての整理」では、一般病床の機能分化の推進に向け、医療機関が担っている医療機能を都道府県に報告する仕組みを導入することが決定しました。この「病床機能情報の報告制度」は、平成26年度から導入され、医療機関は医療機能の中から、その有する病床の医療機能の現状と今後の方向を選択し、病棟単位で都道府県に報告することになっています。制度導入の目的は、地域の将来的な医療需要を踏まえながら、医療提供者等の主体的な関与の下で、新たに医療計画において、今後のその地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携を適切に推進するための地域医療ビジョンを策定することにあります。

これは次期医療計画(第7期医療計画、平成30年度開始)への反映を踏まえたものであり、得られた情報に基づき、平成30年度の診療報酬及び介護報酬同時改定で機能再編を後押しする内容(急性期の絞り込み、亜急性期への移行推進等)として盛り込まれることが予測されています。

病床機能情報の報告制度と地域医療ビジョン策定までの流れ



機能分化を推進するための仕組み



(2) 診療報酬改定の動向

ア 診療報酬改定の流れ

近年の診療報酬の傾向として、平成 14 年度診療報酬改定以来、総額でマイナス改定が続けられてきたことが挙げられます。こうして政府が医療費適正化を推進する一方で、少子高齢化や医療の高度化・複雑化が進展した結果、医療従事者への負担が増大したことにより医療現場は疲弊し、いわゆる「医療崩壊」が進むこととなりました。

この医療崩壊を阻止すべく、平成 22 年度改定では 10 年ぶりに総額プラス改定が行われ、平成 24 年度(2012 年度)改定においても全体で 0.004%とわずかながらプラス改定が行われました。

平成 26 年度診療報酬改定では、全体で 0.1%のプラスとなっているものの、消費税増税に伴う医療機関への補填分を除く改定率は-1.26%と、平成 20 年度以来の実質的なマイナス改定となっています。

診療報酬改定率の推移

	H18年度 (2006年度)	H20年度 (2008年度)	H22年度 (2010年度)	H24年度 (2012年度)	H26年度 (2014年度)	うち 増税補填分	実質改定率
全体改定率	▲ 3.16%	▲ 0.82%	0.19%	0.004%	0.10%	1.36%	▲ 1.26%
本体改定率	▲ 1.36%	0.38%	1.55%	1.38%	0.73%	0.63%	0.10%
内科	▲ 1.50%	0.42%	1.74%	1.55%	0.82%	0.71%	0.11%
歯科	▲ 1.50%	0.42%	2.09%	1.70%	0.99%	0.87%	0.12%
調剤	▲ 0.60%	0.17%	0.52%	0.46%	0.22%	0.18%	0.04%
薬価改定等	▲ 1.80%	▲ 1.20%	▲ 1.36%	▲ 1.38%	-0.63%	0.73%	▲ 1.36%
薬価	▲ 1.60%	▲ 1.10%	▲ 1.23%	▲ 1.26%	-0.58%	0.64%	▲ 1.22%
材料価格	▲ 0.20%	▲ 0.10%	▲ 0.13%	▲ 0.12%	-0.05%	0.09%	▲ 0.14%

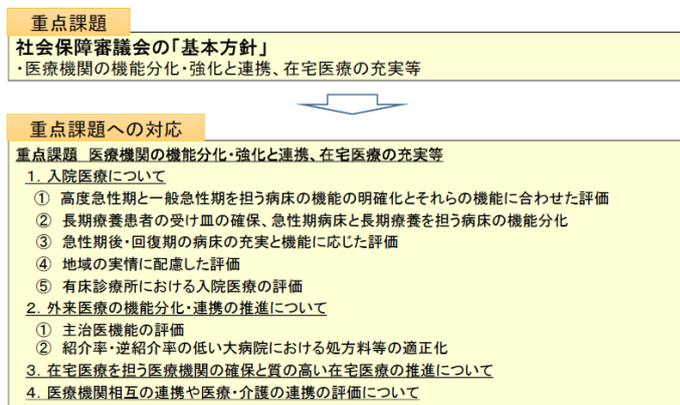
イ 平成 26 年度診療報酬改定の全体像

前回の平成 24 年度改定は 6 年に 1 度の診療報酬と介護報酬の同時改定の年であり、その中では、地域連携体制の強化に視点が置かれており、医療・介護の円滑な連携の推進に向けて、在宅医療や訪問看護・訪問介護を充実するため、各業務に携わる職員の負担軽減と待遇改善を図る観点から診療報酬・介護報酬の見直しが行われました。

今回の平成 26 年度診療報酬改定の基本方針によれば、基本認識として、少子高齢化の進展に伴い医療需要が慢性疾患中心に変化する中で、医療提供体制の再構築が必要と指摘されています。このため、社会保障・税一体改革や社会保障制度改革国民会議の報告書で示された機能分化・連携の強化という提言も踏まえながら、「医療法改正に先駆けて、入院医療、外来医療を含めた医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等に取り組む必要がある」としています。

これまでの改定では通常、3 項目程度挙げられていましたが、平成 26 年度診療報酬改定の重点課題は「医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等」の 1 項目に絞り込んでいる点を考慮すると、より集中的な対応が図られることが推察されます。

平成26年度診療報酬改定における重点課題と対応



(3) 島田市及び志太榛原二次保健医療圏における医療提供体制

ア 島田市及び志太榛原二次保健医療圏における医療提供の状況

(ア) 静岡県内の基準病床数と既存病床数

平成22年の静岡県保健医療計画によれば、静岡県全域でみると、一般病床及び療養病床の既存病床数は基準病床数を2,308床下回っています。また、二次保健医療圏別にみると、志太榛原二次保健医療圏(以下、「志太榛原医療圏」という)は基準病床数(4,244床)に対して既存病床数(3,473床)であり、病床数が不足している圏域と位置付けられています。

静岡県二次保健医療圏別の基準病床数と既存病床数 単位：床

病床種別	二次保健医療圏	基準病床数(床) (H22.3.30告示) (A)	既存病床数(床) (H25.11.30時点) (B)	基準病床数との差(床) (B)-(A)
一般病床及び療養病床	志太榛原	4,244	3,473	▲771
	静岡	7,189	6,335	▲854
	中東遠	3,186	3,127	▲59
	西部	7,825	7,690	▲135
	富士	3,023	2,811	▲212
	駿東田方	6,555	6,563	8
	熱海伊東	1,126	950	▲176
	賀茂	978	869	▲109
	静岡県全域	34,126	31,818	▲2,308
	精神病床	静岡県全域	6,946	6,871
結核病床	静岡県全域	108	168	60
感染症病床	静岡県全域	48	48	0
合計		41,228	38,905	▲2,323

※ 出典：静岡県「静岡県保健医療計画(平成22年)」

(イ) 二次保健医療圏別の病院数及び病床数

対人口10万人で島田市及び志太榛原医療圏における病院数及び病床数を静岡県全域と比較すると、二次保健医療圏別の病院数では、志太榛原医療圏は、静岡県全域と比較し、地域医療支援病院以外の病院が少ない状況にあります。これは、島田市についても同様です。また、病床数でみると、島田市の療養病床数及び精神病床数については、静岡県全域と比較して特に少ないことがわかります。

市立島田市民病院は、急性期医療を担う島田市で唯一の病院ですが、島田市において不足している回復期リハビリテーション病床(34床)、療養病床(35床)及び精神病床20床(現在、休止中)も有する病院であることから、島田市の医療提供体制において重要な役割を担っています。なお、回復期リハビリテーション病床は、下表のうち、一般病床に該当します。

静岡県二次保健医療圏別病院数 単位：施設

二次保健医療圏	施設数	施設数						
		一般病院	精神科病院	結核療養所	療養病床を有する病院(再掲)	救急告示病院(再掲)	地域医療支援病院(再掲)	
志太榛原	13	11	2	0	9	6	3	
対人口10万人	志太榛原	2.8	2.3	0.4	0.0	1.9	1.3	0.6
	島田市(再掲)	1.0	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0
静岡	28	23	5	0	12	10	6	
対人口10万人	3.9	3.2	0.7	0.0	1.7	1.4	0.8	
中東遠	19	14	5	0	7	7	1	
対人口10万人	4.0	3.0	1.1	0.0	1.5	1.5	0.2	
西部	41	33	8	0	23	13	6	
対人口10万人	4.8	3.8	0.9	0.0	2.7	1.5	0.7	
富士	19	14	5	0	8	8	1	
対人口10万人	4.9	3.6	1.3	0.0	2.1	2.1	0.3	
駿東田方	48	43	5	0	23	22	2	
対人口10万人	7.1	6.4	0.7	0.0	3.4	3.3	0.3	
熱海伊東	7	7	0	0	5	4	0	
対人口10万人	6.3	6.3	0.0	0.0	4.5	3.6	0.0	
賀茂	9	7	2	0	3	3	0	
対人口10万人	1.22	0.95	0.27	0.0	0.41	0.41	0.0	
静岡県全域	184	152	32	0	90	73	19	
対人口10万人	4.9	4.0	0.8	0.0	2.4	1.9	0.5	

※ 出典：厚生労働省「平成24年度医療施設調査」

静岡県二次保健医療圏別病床数 単位：床

二次保健医療圏	病床数(床)	病床数(床)					
		一般病床(床)	療養病床(床)	精神病床(床)	感染症病床(床)	結核病床(床)	
志太榛原	3,946	2,414	1,062	446	6	18	
対人口10万人	志太榛原	835.0	510.8	224.7	94.4	1.3	3.8
	島田市(再掲)	534.5	465.7	34.9	19.9	6.0	8.0
静岡	7,758	4,687	1,941	1,024	6	100	
対人口10万人	1,083.2	654.4	271.0	143.0	0.8	14.0	
中東遠	3,988	1,997	994	991	6	0	
対人口10万人	846.7	424.0	211.0	210.4	1.3	0.0	
西部	9,532	4,929	2,664	1,859	10	70	
対人口10万人	1,107.1	572.5	309.4	215.9	1.2	8.1	
富士	3,743	1,765	968	994	6	10	
対人口10万人	969.6	457.2	250.8	257.5	1.6	2.6	
駿東田方	8,105	4,629	2,289	1,181	6	0	
対人口10万人	1,203.5	687.4	339.9	175.4	0.9	0.0	
熱海伊東	958	648	306	0	4	0	
対人口10万人	862.7	583.5	275.6	0.0	3.6	0.0	
賀茂	1,198	350	406	438	4	0	
対人口10万人	1,625.2	474.8	550.8	594.2	5.4	0.0	
静岡県全域	39,228	21,419	10,630	6,933	48	198	
対人口10万人	1,041.9	568.9	282.3	184.1	1.3	5.3	

※ 出典：厚生労働省「平成24年度医療施設調査」

イ 二次保健医療圏別の病床利用率と平均在院日数

静岡県全域の病床利用率は、全国と比較して低い値となっています。特に一般病床の病床利用率は低く、志太榛原医療圏では65.8%となっています。

平均在院日数をみると、志太榛原医療圏の一般病床の平均在院日数は、14.2日であり、全国及び静岡県全域と比較して短い圏域であることがわかります。

静岡県二次保健医療圏別病床利用率と平均在院日数

二次保健医療圏	病床利用率 (%)		療養病床 (%)	二次保健医療圏	平均在院日数 (日)		療養病床 (日)
	一般病床 (%)	療養病床 (%)			一般病床 (日)	療養病床 (日)	
志太榛原	74.0	65.8	92.5	志太榛原	25.0	14.2	190.4
静岡	76.3	70.9	90.7	静岡	27.6	16.3	232.4
中東遠	74.0	60.9	89.9	中東遠	32.2	14.4	205.3
西部	82.6	76.3	91.8	西部	29.7	14.8	233.1
富士	77.3	67.7	85.7	富士	33.2	15.2	147.0
駿東田方	76.1	70.7	80.3	駿東田方	29.2	16.4	187.9
熱海伊東	81.4	78.6	87.8	熱海伊東	25.4	17.7	216.0
賀茂	86.8	78.9	92.8	賀茂	78.3	23.7	328.8
静岡県全域	77.9	70.7	88.4	静岡県全域	29.6	15.6	207.3
全国	81.5	76.0	90.6	全国	31.2	17.5	171.8

※ 出典：厚生労働省「平成24年度病院報告」

こうした圏域の状況に対して、市立島田市民病院の病床利用率及び平均在院日数の推移は下表のとおりです。

一般病床について、平成24年度では、79.8%の病床利用率、平均在院日数は13.1日となっています。また、療養病床については、81.9%の病床利用率、平均在院日数は49.1日となっています。療養病床の平均在院日数は、圏域や静岡県全域の平均と比較すると短期間となっていますが、これは市立島田市民病院の療養病床が、院内の急性期を脱した患者の退院調整機能としての位置付けで運用していることによるものです。

市立島田市民病院における病床利用率の推移

単位：%

病床区分	病床数	H22	H23	H24	H25	備考
一般病床等	447	92.0	89.7	79.8	81.4	結核・感染含む
療養病床	35	100.5	96.1	81.9	81.3	
回復期リハビリテーション病床	34	94.3	88.5	71.5	80.3	
精神病床	20					H19.4より休止
全体	536	92.7	90.3	79.4	81.5	

※ 出典：市立島田市民病院調べ

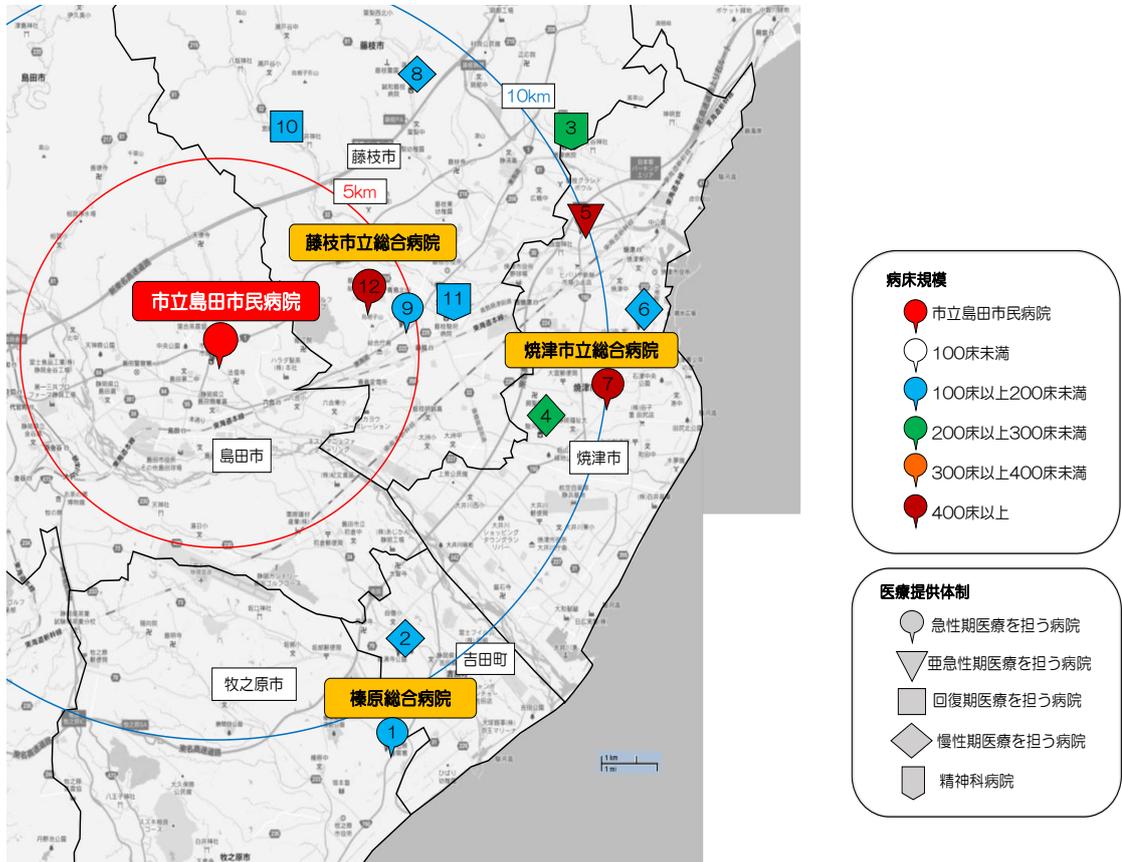
市立島田市民病院における平均在院日数の推移

病床区分	H22	H23	H24	H25	備考
一般病床	12.7日	12.6日	13.1日	14.0日	
結核病床	66.0日	77.2日	222.3日	93.4日	
療養病床(医療)	51.7日	47.1日	49.1日	53.8日	
回復期リハビリテーション病床	36.0日	37.4日	35.9日	40.0日	
精神病床					H19.4より休止
全体	15.1日	14.9日	15.2日	16.3日	

※ 出典：市立島田市民病院調べ

ウ 志太榛原医療圏における病院の配置状況

志太榛原医療圏内の病院の配置状況は下図のとおりです。市立島田市民病院から 10km 程度の圏域内に 12 の病院があります。



志太榛原医療圏における病院概要

市	No.	病院名称	病床数	DPC対象病院					救急告示病院	救急医療管理加算算定	亜急性期入院料算定	回復リハ病床入院料算定
				一般	療養	精神	感染症	結核				
島田市	-	市立島田市民病院 ^{*1}	536	467	35	20	6	8	Ⅲ群	●	●	●
牧之原市	1	榛原総合病院 ^{*2}	450	355	42	53			Ⅲ群	●	●	
吉田町	2	はいなん吉田病院	180		180							
焼津市	3	医療法人社団高草会 焼津病院	203			203						
	4	医療法人社団綾和会 駿河西病院	200		200							
	5	コミュニティーホスピタル 甲賀病院	407	379	28						●	●(208床)
	6	岡本石井病院	168	30	138							
	7	焼津市立総合病院	471	471					Ⅲ群	●	●	
	8	医療法人社団八洲会 誠和藤枝病院	228		228							
藤枝市	9	藤枝平成記念病院	199	113	86				Ⅲ群			
	10	医療法人社団聖稜会 聖稜リハビリテーション病院	125		125							●(125床)
	11	医療法人社団凜和会 藤枝駿府病院	170			170				●		
	12	藤枝市立総合病院	594	584				10	Ⅲ群	●	●	

※ 出典1：東海北陸厚生局「届出受理医療機関名簿」（平成26年1月1日現在） ※ 出典2：静岡県「静岡県保健医療計画」（平成25年3月）
 ※ 出典3：DPC評価分科会「機能評価係数Ⅱの内訳」（平成25年4月3日現在）
 *1 市立島田市民病院の現稼働病床数は、一般：467床、療養：35床、感染症：6床、結核：8床、合計：516床、精神病床：20床は現在休床中
 *2 榛原総合病院の現稼働病床数は、一般：141床、療養：42床、合計：183床

エ 病院における医療従事者

二次保健医療圏別に病院に勤務する医療従事者(対人口 10 万人)をみると、志太榛原医療圏の医師数、薬剤師数及び看護師数は、静岡県全域と比較して少ない状況です。

医師数(対人口 10 万人)については、静岡県全域では 124.3 人であるのに対し、志太榛原医療圏では 88.4 人と 7 割程度であり、静岡県内の医療圏別では 3 番目に少ない医療圏となっています。また、薬剤師数(対人口 10 万人)については、静岡県全域で 28.4 人であるのに対し、志太榛原医療圏では 19.6 人であり、静岡県内の医療圏別では最も少なく、看護師数(対人口 10 万人)についても、静岡県全域で 477.5 人であるのに対し、志太榛原医療圏では 384.4 人と 8 割程度であり、看護師配置についても厳しい状況となっています。

静岡県二次保健医療圏別医療従事者数

単位：人

二次保健医療圏 職種	志太榛原	静岡	中東遠	西部	富士	駿東田方	熱海伊東	賀茂	静岡県全域	全国
医師	417.8	997.2	363.7	1,389.1	293.1	974.8	158.4	85.3	4,679.4	202,825.2
対人口10万人	88.4	139.2	77.2	161.3	75.9	144.7	142.6	115.7	124.3	158.4
薬剤師	92.5	220.7	96.7	271.9	100.7	230.9	35.7	20.7	1,069.8	44,353.9
対人口10万人	19.6	30.8	20.5	31.6	26.1	34.3	32.1	28.1	28.4	34.6
看護師	1,816.8	3,897.8	1,694.0	4,693.1	1,464.7	3,762.3	393.3	255.2	17,977.2	725,559.8
対人口10万人	384.4	544.2	359.7	545.1	379.4	558.7	354.2	346.2	477.5	566.6

※ 出典：厚生労働省「平成24年度病院報告」

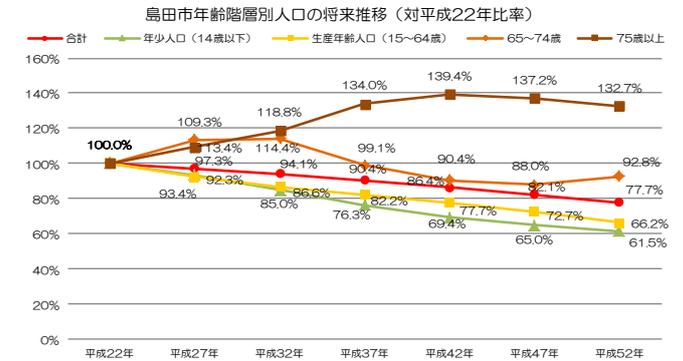
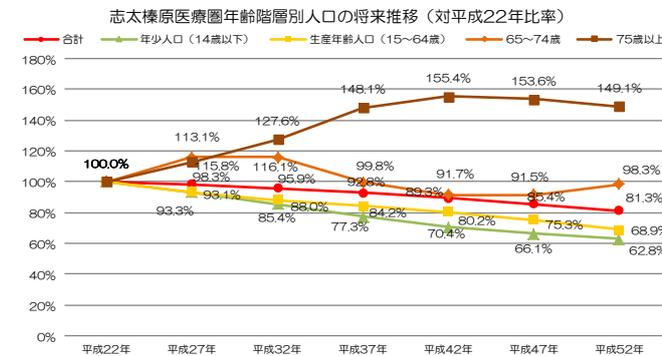
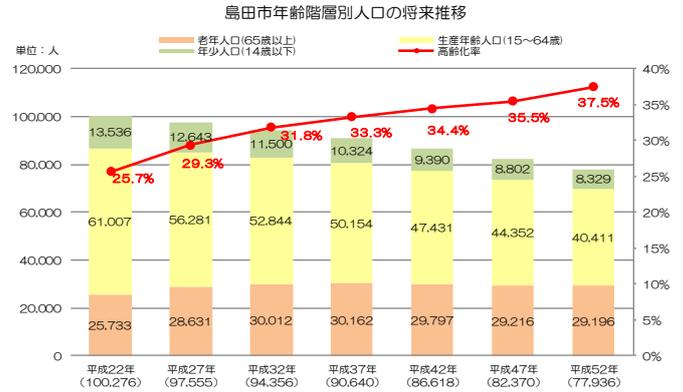
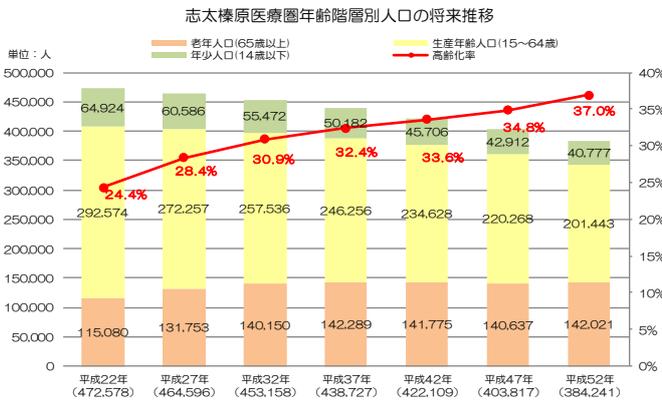
才 将来的な医療需要予測

(ア) 志太榛原医療圏及び島田市の将来人口推計

国立社会保障人口問題研究所による将来人口推計によれば、志太榛原医療圏における人口は年々減少し、平成 52 年には平成 22 年の 81.3%になることが予測されます。

一方、人口に占める高齢者の割合は年々増加し、高齢化率は平成 52 年に 37.0%に達することが予測されます。

また、島田市の将来人口推計では、平成 52 年には平成 22 年の 77.7%まで減少する一方で、高齢化率は 37.5%まで上昇することが予測されています。特に、75 歳以上人口は、平成 42 年まで増加することが予測されます。



※ 出典：国立社会保障 人口問題研究所「日本の市町村別将来推計人口（平成25年3月推計）」
 ※ 総数については、階級別人口が四捨五入されているため厳密には誤差がある。

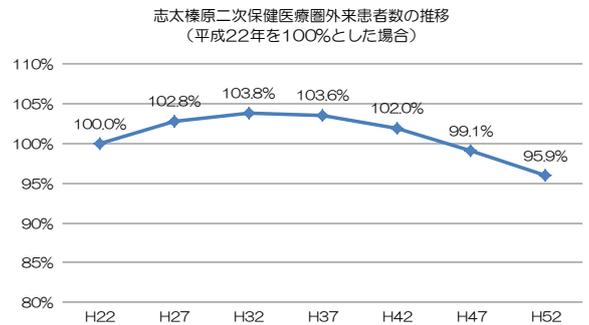
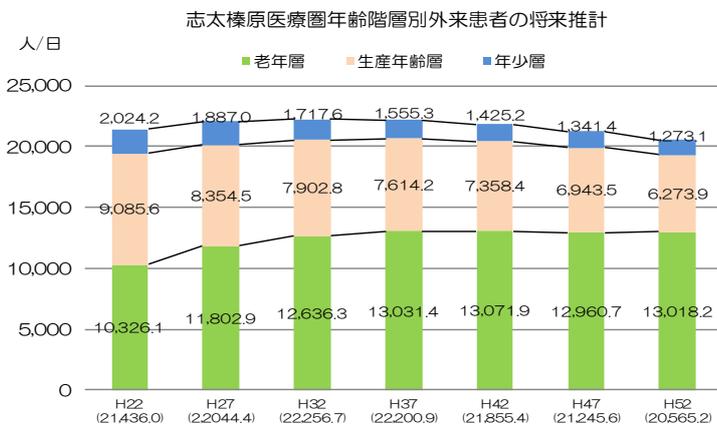
※ 出典：国立社会保障 人口問題研究所「日本の市町村別将来推計人口（平成25年3月推計）」
 ※ 総数については、階級別人口が四捨五入されているため厳密には誤差がある。

(イ) 志太榛原医療圏及び島田市における外来患者数の将来推計

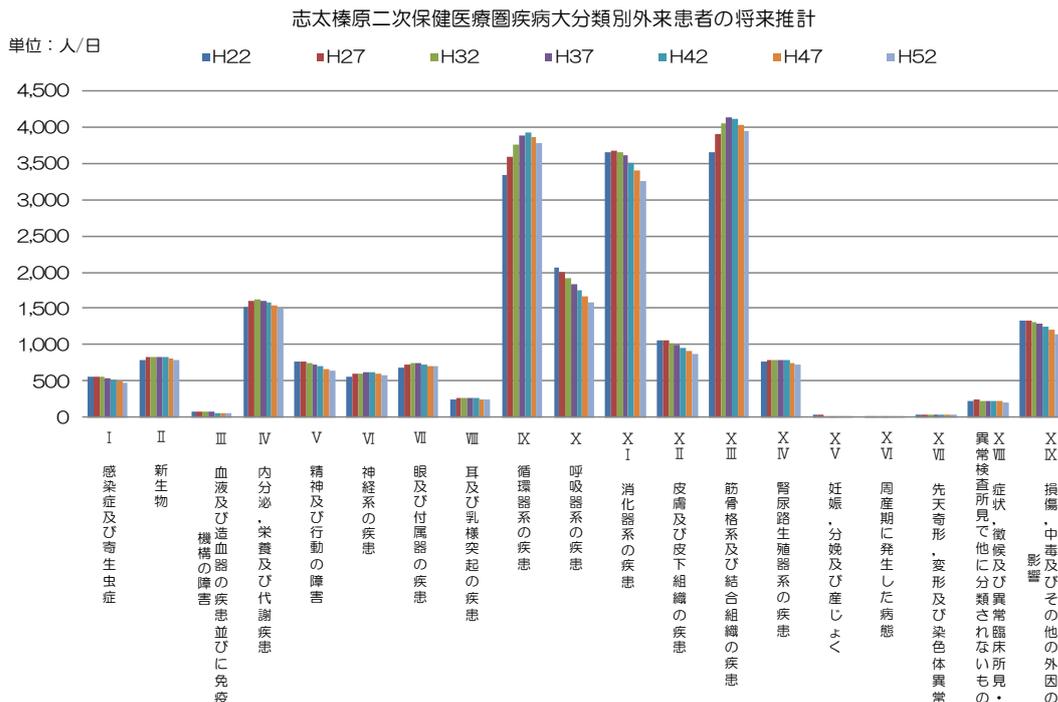
a 志太榛原医療圏における外来患者数(病院及び診療所、医科及び歯科、1日当たり)の将来推計

将来人口推計結果に静岡県の外來受療率(病院及び診療所、医科及び歯科、1日当たり)を用いて、将来患者数を推計したところ、志太榛原医療圏における外来患者数(病院及び診療所、医科及び歯科、1日当たり)は、高齢化の影響により、平成32年まで緩やかに増加した後、減少傾向に転じることが予測されます。

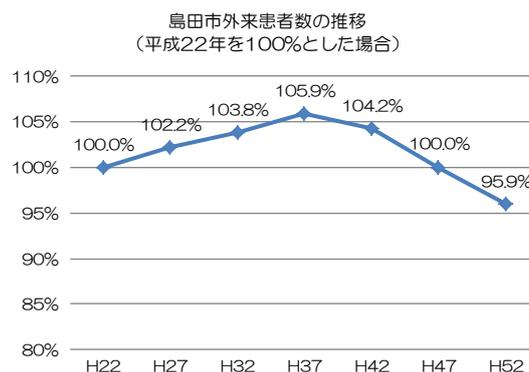
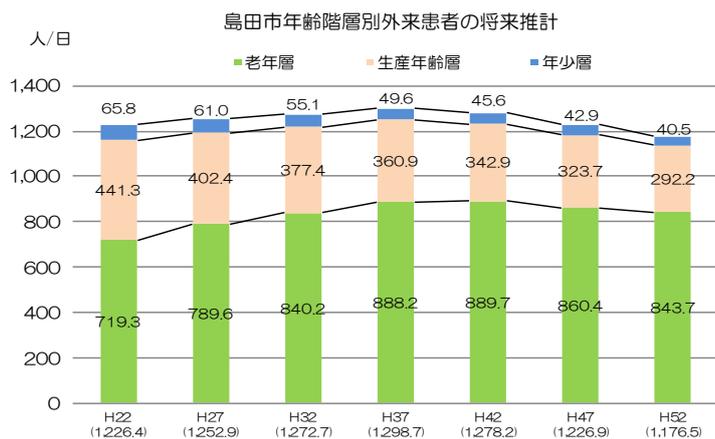
疾病分類別にみると、高齢者に特徴的な「循環器系の疾患」「消化器系の疾患」「筋骨格系及び結合組織の疾患」が主たる疾患と予測されます。



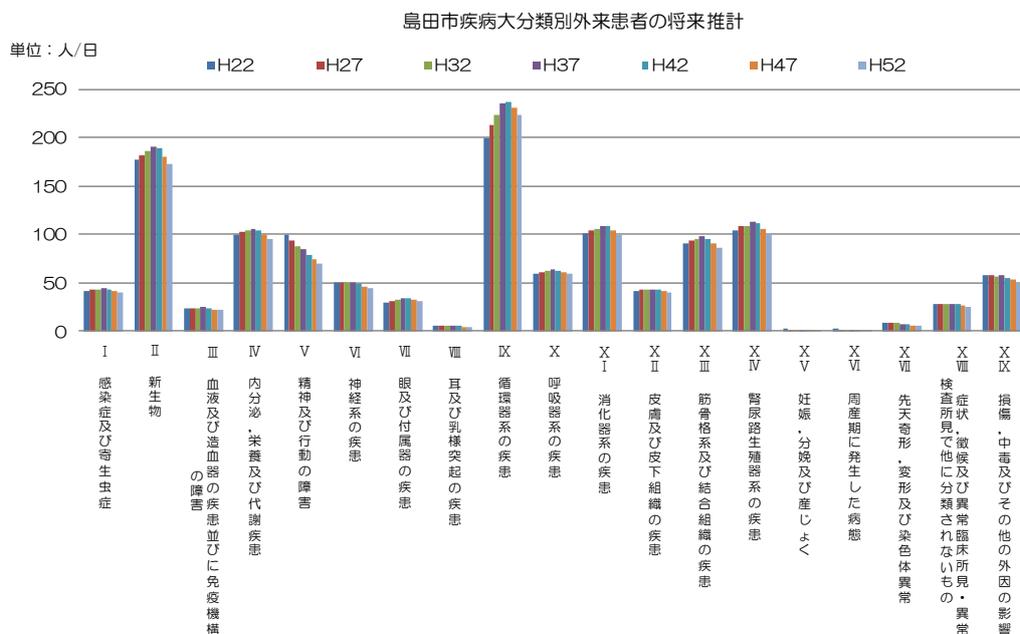
※ 出典：厚生労働省「平成23年度患者調査」都道府県受療率を用いて、将来推計を行った。



- b 島田市における外来患者数(病院のみ、医科及び歯科、1日当たり)の将来推計
 将来人口推計結果に島田市の国民健康保険及び後期高齢者の被保険者の受療データから算出した外来受療率を用いて、将来患者数を推計したところ、島田市における外来患者数(病院のみ、医科及び歯科、1日当たり)については、人口減少により、平成37年度をピークとして、減少していくことが予測されます。
 疾病分類別にみると、多い疾患として「循環器系の疾患」「悪性新生物」が予測されます。



※ 出典：島田市国民健康保険及び後期高齢者被保険者データより受療率を算出し、将来推計を行った。



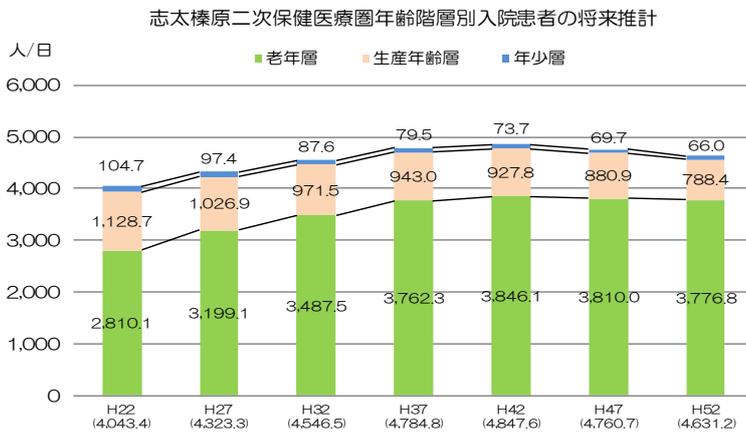
(ウ) 志太榛原医療圏及び島田市における入院患者数の将来推計

a 志太榛原医療圏における入院患者数(病院及び診療所、医科及び歯科、1日当たり)の将来推計

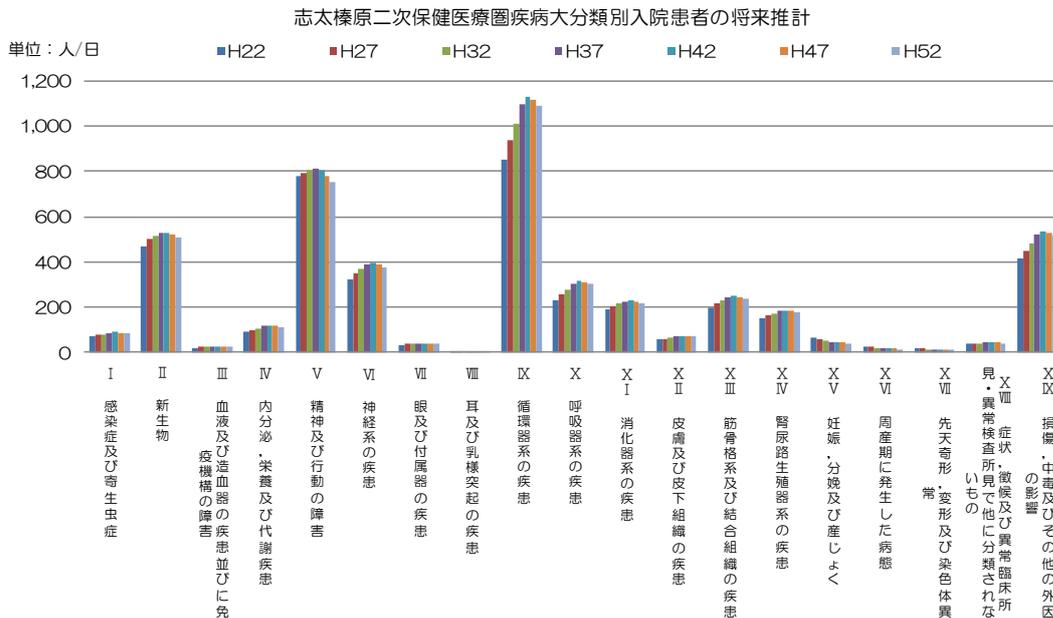
将来人口推計結果に静岡県の上院受療率(病院及び診療所、医科及び歯科、1日当たり)を用いて、将来患者数を推計したところ、志太榛原医療圏における入院患者数(病院及び診療所、医科及び歯科、1日当たり)は、外来患者数の将来推計と同様に、高齢化の影響を受け、平成42年まで増加した後、減少傾向に転じることが予測されます。入院患者数の推移については、志太榛原医療圏の年齢階層別人口の将来推移のうち、75歳以上の推移に近似した傾向があります。

病院の上院患者数は、平成42年には平成22年の120%程度まで増加し、その後は減少に転じ、平成52年時点で平成22年の114.5%となることが予測されます。

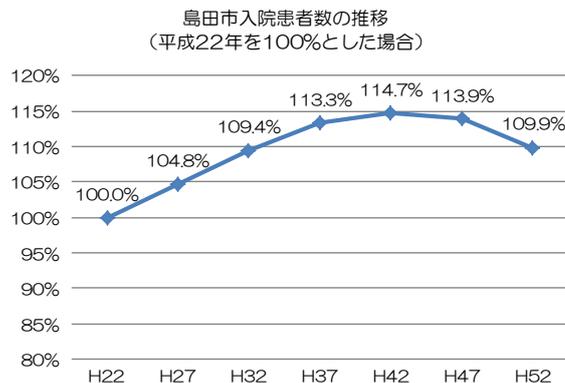
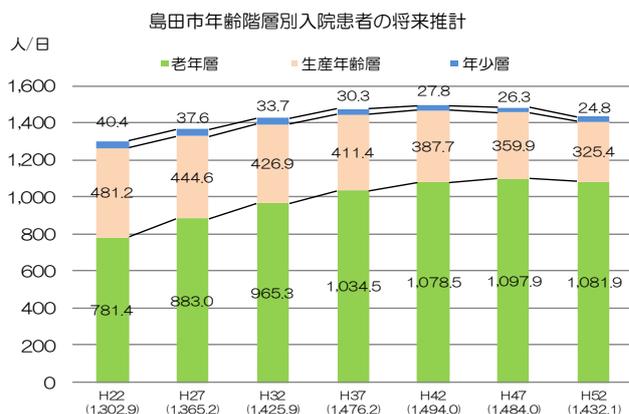
疾病分類別にみると、「循環器系の疾患」の伸びが顕著となっています。



※ 出典：厚生労働省「平成23年患者調査」都道府県別受療率を用いて、将来推計を行った。



- b 島田市における入院患者数(病院のみ、医科及び歯科、1日当たり)の将来推計
 将来人口推計結果に島田市の国民健康保険及び後期高齢者の被保険者の受療データから算出した入院受療率を用いて、将来患者数を推計したところ、島田市における入院患者数(病院のみ、医科及び歯科、1日当たり)については、平成42年まで増加することが予測されます。これは75歳以上の将来人口推移が影響しています。疾病分類別にみると、「循環器系の疾患」の伸びが顕著となっています。



※ 出典：島田市国民健康保険及び後期高齢者被保険者データから受療率を算出し、将来推計を行った。

